

大会宣言

第75回定期大会は4年ぶりにコロナ以前の規模で開催された。感染症法上の位置づけが変更されて以降、社会生活は脱コロナの様相となり以前の暮らしに戻っているが、この間ウェブ活用の広がりが産業構造の変化に影響を与えている。組合活動も対面が再開されていく中で改めてウェブには無い対面の良さを感じる事、仲間の・つながりや大切さを実感した。

いま、我々の働く環境が大きく変わろうとしている。建設技能者の処遇改善を目指して立ち上げられた建設キャリアアップシステムは技能者、事業者ともに登録者が増加し、今後も組合員への周知や登録のサポートが求められる。建築物石綿含有建材調査者の有資格者による現場調査の義務付けを受けて、組合員の資格取得のための講習会や実地講習を開催し、多くの仲間の資格取得を支援してきた。国が進める省エネ基準の推進の中で、2025年の適用義務化に向けて断熱施工実技研修会を開催し組合員の施工技術向上に取り組みを進める。

来年4月からは建設業での残業時間上限規制が全面適用される。建設業では新3Kとして、給料の引き上げ、休日増の実現、希望が持てる業界を目指し若年層の担い手確保に結び付けていくことが求められる。

一方、政府与党は反対の声に耳を傾けず10月からインボイス制度がスタートする。組合では全建総連を先頭に延期・見直しを求める運動を継続してきた。制度の周知のための説明会は、延べ953人が参加した。小零細事業者には消費税の申告納税が大きな負担となる。延期・見直しを求める運動を強化していかなければならない。

今年の春闘では政労使会議がおこなわれ、政府として物価高騰を上回る賃上げを要望するなど大企業で3.91%の引き上げと30年ぶりの高水準となった、人手不足に加えてロシアのウクライナ侵攻の影響や急激な円安から生活必需品や建築資材の度重なる価格高騰が続いていることが背景にある。建設業においても価格高騰の影響を大きく受け、賃金単価の引き上げへの価格転嫁が難しい中で実質的に賃金が下がっている状況が続く。設計労務単価は工1年連続して政策的に引き上げられ、労働者・職人の賃金引き上げにむけて法定福利費確保の学習など賃金運動を強めていく。

命の綱である建設国保は国庫補助需1」度の見直し、被用者保険の適用拡大、保険証の廃止などかつてない危機に直面している。マイナンバーカードの保険証」体化は、カド登録情報の不備や紐づけが進んでいないなどで来秋の開始に不安の声も多く、保険証の廃止は組合員の組合への帰属意識低下につながる大きな問題となる。今秋の保険記≡交換学習会は対面開催で組合事業や運動の取り組みを組合員に伝えていく。

仲間同士の支え合い、助け合いの精神で運営する兵庫土建共済は最後までコロナ罹患者への給付を実施し、今後も内容の拡充から魅力ある共済制度として発展させていく。

組織現勢は減少傾向の情勢の中でも微減にとどめている。コーナンプロとの事業提携は厳しい扶況下で少しでも経費削減につなげ、拡大運動の新たなツールとして実増へ展望を拓く。

新年度の運動方針を掲げ、団結し、助け合い、笑顔あふれる組合を目指すと共に組合員の仕事と暮らしを守る運動を前進させる。

大会の総意をもって宣言する。

令和5年9月1日

兵庫県土建一般労働組合第75回定期大会